

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 058	提案機関名 農業技術センター三浦半島地区事務所
要望問題名 可給態窒素水準に基づくキャベツ、ダイコンの窒素施肥基準量策定について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 可給態窒素の簡易迅速分析法の開発（中央農業研究センター）により、従来法で約一ヶ月を要していた可給態窒素の分析期間が数日に短縮され、土壌診断センター等での分析が可能となった。しかしながら、可給態窒素水準に基づく窒素施肥基準量が策定されている作目は少ない。 こうしたことから、三浦半島の主要作物であるキャベツ、ダイコンで可給態窒素水準に基づく窒素施肥基準量を策定することにより、精度の高い窒素適正施肥が可能となり、窒素施用量低減や品質の向上など環境保全型農業の推進に資することができる。 キャベツ作付面積 三浦市778ha、横須賀市321ha（平成24年産野菜生産出荷統計） ダイコン作付面積 三浦市710ha、横須賀市18ha（平成24年産野菜生産出荷統計）	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部土壌環境研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 （①、②、④の場合） 県内の土壌環境を構成する要因の解明と評価 1 土壌環境の変動要因解明と保全対策の確立 （2）地力保全対策診断調査 （イ）土壌可給態窒素測定法の検討			
対応の内容等 可給態窒素水準に基づく窒素施肥基準量の策定は大変重要な課題です。そのため、現在、中央農業総合研究センターで開発された80℃16時間水抽出による畑土壌可給態窒素の簡易判定法について、県内土壌への適応の可否を検討しています。 この結果を踏まえて、今後、三浦半島地区事務所と連携して実施可能かどうか検討します。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			